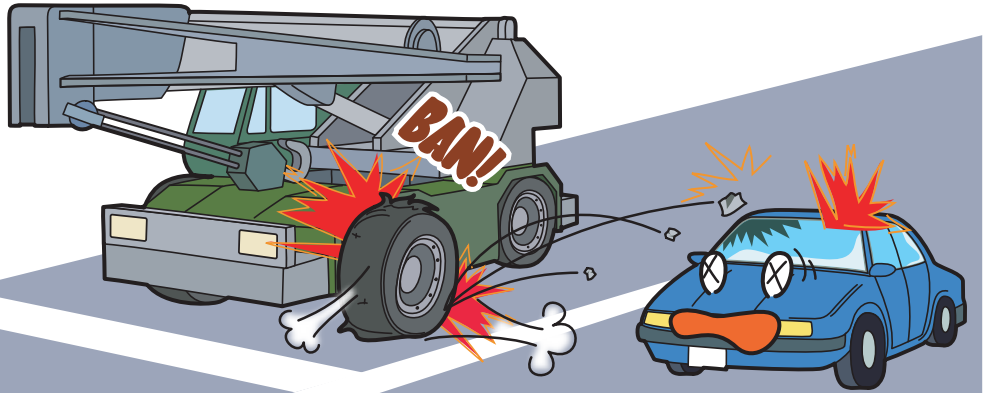


事故事例

タイヤがバーストし、停車していた車の窓ガラスを割った

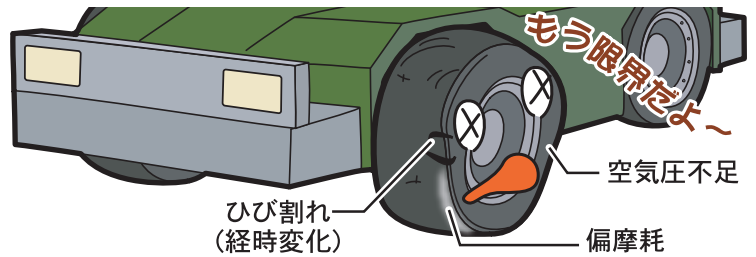
事故発生状況

信号待ちでラフテレーンクレーンが停車したとき、突然タイヤがバーストし、その衝撃で停車していた車の窓ガラスを割った。



原因

経時変化によるゴムのひび割れや、タイヤの空気圧不足、偏摩耗などが考えられます。

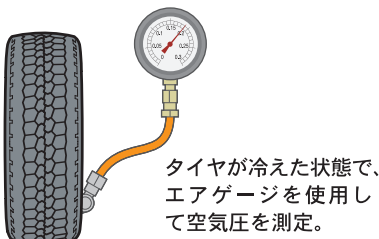


対策

日常点検の徹底

- ・長期期間使用したタイヤは、溝深さが使用限度に達していなくても、ゴムの劣化によりバーストを招く可能性があります。
- ・使用開始後**5年以上**経過したタイヤは要注意！継続使用できるかどうか、点検を徹底してください。

空気圧



タイヤが冷えた状態で測定

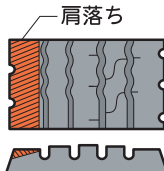
サイズ	適正空気圧
325/95R24	900kPa
385/95R25	
445/95R25	
505/95R25	800kPa

極端な偏摩耗

偏摩耗の発生を防止するため、定期的なローテーションや空気圧管理を行い、過荷重を避ける。

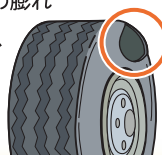
偏摩耗

- ・肩落ち
- ・片減り
- ・リバーウェア
- ・ヒール&トゥ



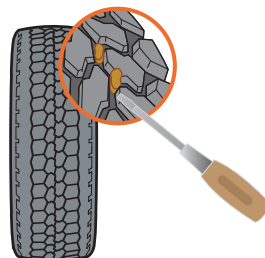
変形

- ・タイヤサイド部の膨れ
- 発見した場合は、すぐにタイヤ販売店に相談。



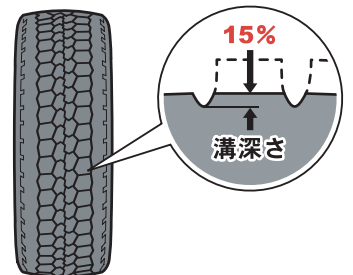
異物・石噛み・傷

- ・溝への石や異物の噛み込みはとり除くこと。
- ・トレッド部やサイド部への外傷でコードに到達するものを発見した場合は、すぐにタイヤ販売店に相談。



溝深さ

残り溝約3~4mmが使用限度の目安(新品時の溝深さの15%が使用限度※)



※(社)日本建設機械化協会「建設車両用タイヤの選定・使用・整備基準」に基づく

クレーン用タイヤは小型トラックや乗用車用タイヤよりも、厳しい条件下で使用されるため、運転前には必ず点検を実施しましょう！

